



ケニアからの報告

安部 琢哉

1981年1月から10月まで、私はアフリカのケニアの首都ナイロビにある国際昆虫生理・生態学センター(ICIPE)でシロアリの生態学的調査に従事した。

ナイロビ

暗黒の大陸アフリカ。そういうイメージを持ってケニアのナイロビに着いてびっくりすることが2つある。1つはナイロビ、特にその中心部に近代高層建築が並び、ヨーロッパの都市かと思うほどに、ヨーロッパ化されていることであり、他の1つはナイロビを含めて、東アフリカ高原地域の気候のよさである。ナイロビは赤道直下といってもよいところにあるが、標高が1800 mぐらいあるために思いのほか涼しい。沖縄で言えば12月の晴れた日、そんな感じの日がほぼ一年間続く。もちろん雨期と乾期は1年間に2回ずつあって季節変化がない訳ではない。しかし日中は 24° — 25°C 、夜間は 15° — 16°C で年中、冷暖冷の必要が全くない。夕方せんたく物を部屋に干しておく翌朝には着ることができる。

ナイロビには日本学術振興会のアフリカ地域研究センターがあり、アフリカで行なわれる学術調査の便宜を計ってくれる。センターの駐在員の山極さん(京大)には滞在中、ずいぶんお世話になった。

調査には車が不可欠なので、新聞の広告を見てかたっぱしから電話した。こちらの言うことはなんとか通じているが、困ったことに相手の言う英語がさっぱり聞きとれない。なんとか中古車は入手できたが、電話恐怖症となってしまった。受話器を取るとすぐこちらから「ゆっくりしゃべってくれ、そしたらおまえのいうことはすべてわかる」と言ってから相手の言うことを聞くという方法を見出すまで3ヶ月かかった。

ICIPE

ICIPEはアフリカの病害虫の防除のための研究を行なう国際研究機関で、眠り病のツェツェバエ、マラリア蚊、家畜につくダニ、アフリカの主要農作物のトウモロコシの食害虫、それにシロアリを主な研究対象にしている。研究者数から言えば琉球大学理学部ぐらいの規模であろうか。研究者のおおよそ $\frac{1}{3}$ がヨーロッパ人、 $\frac{1}{3}$ がインド・パキスタン人、 $\frac{1}{3}$ がケニア及び他のアフリカ人であった。シロアリ関係ではリーダーがアメリカ人・研究者のうちイギリス人が3、カナダ人1、スイス人1、ウガンダ人1、ケニア人3、それに私であった。日本から毎年1人の農学あるいは生物学研究者が、日本学術振興会から派遣されている。

草の海

ICIPEのシロアリ調査のための分室がナイロビの南 80 km のカジャドというところにある。私はそこで 10 ヶ月間、シロアリの摂食活動を 3 人の研究者と共に調べた。ナイロビから南へ車で 30 分も走ると、前後左右、人っ子一人いない草原が果てしなくひろがっている。コウモリガサの形をしたアカシアの木が点在するいわゆるサバンナであるが、雨期には“緑の海”という表現がぴったりする。困るのは立小便をする時である。なにしろ見晴らしが好すぎて、なんだか誰かに見られているようで落ちつかない。わざわざアカシアの木のところまで歩いて行って用をたすが、とにかく何でも“まる見え”なのである。じっと目をこらして、ゆっくり見廻すと、たいてい遠くで何か動いているものに出会わず。双眼鏡で見ると、キリンであったり、シマウマであったり、マサイ族の牛であったり、トムソンガゼルであったりする。ところどころに高さ 1—1.5m 位の土のもりあがりが見える。これが今回私が調べに行ったシロアリの巣である。

シロアリ

シロアリはアリと混同されることが多いが、アリはハチの仲間であるのに対して、シロアリはゴキブリに近いので、両者はハチとゴキブリが違っている程度には異なっている。簡単に言えば、胸と腰の間がぎゅっとくびれていてグラマーな女性を思わせるのがアリで、胸と腰の間のくびれがなく、ずん胴なのがシロアリである。熱帯でアリ塚と呼ばれている大きな土のもりあがりはずべてシロアリの巣である。ザンビアでは人間の家より大きなアリ塚もめずらしくなかった。

さてこのような大きな塚をつくるシロアリは通常、枯草を食っているのであるが、枯草がなくなると緑草を食うようになる。かくしてシロアリは緑草をめぐって牛の競争相手となる。ところがシロアリは地下にトンネルを網目のように掘るために、土中の空気の流通がよくなる。当然、緑草の発育はよくなると考えられる。つまり牛にとって、従って人間にとって、シロアリは害虫と益虫の両側面を持っていることになる。そこでサバンナでシロアリはそもそもどんな役割を果しているか明らかにしようというのが我々の当面の研究課題であった。

10 ヶ月の滞在期間に出来ることはわずかなものである、アフリカのサバンナも私のフィールドに加えることにした。アフリカの毒が体中にまわってしまったのかも知れない。

(あべ たくや : 生物学助教授, 生態学)

ブラウジングコーナー

中学生と女学生

僕たちは小学校の 3 年生のときから男女別々に組分けされていた。「男女 7 才にして席を同じうせず」である。男女がひき離なされていた結果であろうか、中学生ともなると、現在の中学生に比べると、異常なまでに女学生に関心をいただいていた。我々中学生が 4, 5 人いる所へ女学生が通りかかると、口笛をふいたり、いろいろな悪ふざけをやった。自分が 1 人で、女学生が複数だと急いで道を変えるか、廻れ右をして難を逃れたものだ。また女学校の運動会を石垣ごしに見て停学をくらった上級生もいたという。

僕の友人に、体の小さい者がいたが、こまねずみのように動きまわり、無類のいたずら好きだった。僕たちは泊から三重橋をわたって積徳高等女学校(家政女学校)の前を通り、その壁沿いのわき道を通って、学校に通っていたが、その通学途上のことであった。くだんのチビ助君が、前に行く女学生をからかい始めた。その相手が悪かった。同じ一年生であればよかったのに、四年生の大きなお姉さんたちだった。女学校の校門近くまで来た時だ、大きなお姉さん 2 人にチビ助君は両手をつかまれて、校内にひきずりこまれてしまった。僕たちは、とっさのできごとに、右往左往するだけで、なすすべを知らなかった。衆寡敵せず、救出は不可能であった。我々は捕虜奪還をあきらめ、やむを得ず登校した。チビ助君は、女どもにさんざんこずかれた上に、遅刻して、先生に油をしぼられ、しおれてあわれをとどめていた。

(参考調査係 T. Y.)

「タテ」か「ヨコ」か

鷓 飼 照 喜

「日本の成功はむしろ『寄り合い』にみる『村』の精神に基づくのではないか」

これは、先月中旬の、本土県大手新聞に掲載されたボン大学教授 J・クライナー氏の小論の結論で、お読みになった方々もおられると思う。この小論では、「成功」についてはクライナー氏は何の説明もしていないが、今日の日本の経済的繁栄を意味していることは明らかである。

けれども、クライナー氏のこの小論は経済学的分析のものではなく、日本の村落の特質に関するもので、その点で、日本と欧米との基層文化の比較研究をも試みようとする意図を示したものであった。そこで、日本の農村社会学の蓄積や、中根千枝氏のいわゆる「タテ社会」論に言及しつつ、西欧こそ「タテ社会」であり、日本では「寄り合い」社会であるというのが、氏の小論の要旨である。冒頭の結論はそこに結びつけられているのである。

もちろん、「結論」は推論が含まれると氏はことわっているものの、そこに氏が日本と欧米との基層文化の比較研究にとり組む背後の問題意識が端的に表現されていると思ったのは私だけではないと思う。日本と欧米文化との比較研究という社会学的な、アカデミックな問題意識の背後に、今日の日本の経済的繁栄への関心を読みとることができたのである。そのうえ、欧米での今日の日本学の隆盛も、日本の古典文学の文献学的研究が中心で、社会的経済的諸側面からのアプローチはごく限られたものであること、したがって欧米への日本の紹介も限られたものでしかないことを指摘せざるを得ないクライナー氏の気持は、こうした背後にある関心からすれば、当然のことと思う。

さて、氏の小論は、日本の村落研究における「タテ社会」論への批判となっているが、こうした批判は、少しちがった角度からはかなり以前から指摘されていることである。その角度とは、やはり社会学的分野に含まれるものであるが、産業組織論の分野での視点である。日本の企業も、明治以来欧米の先進技術を導入し、近代的形態をとってきたが、その内部では「日本的」なものが、高度な産業技術の導入、開発と結びつき、企業内での独自の意思決定過程の様式を生み出してきた、といわれるのである。これが日本(あるいは日本株式会社)の成功の秘密であるというのがクライナー氏の主張である。しかし、それが直ちに日本の「ムラ」的なものから由来していると断言してよいかどうかは、ずいぶんむづかしい問題だと思う。

それよりも、むしろ日本の成功が、他方では重要な労働問題と関わっていることを指摘しておかねばならないであろう。今日の日本の経済的繁栄がエレクトロニクスの発展に負っていることはすでに自明のことであるが、その発展の具体的成果は産業用ロボットの開発・導入となってあらわれる。それ故、現在、世界の産業用ロボットの75%は日本が占めているのである。このシェアの高さは、もちろん一方では日本の産業技術水準の高さの結果であるが、他方では産業用ロボットの導入を可能にしている労働市場の特質を指摘しなければならないのである。——そして、ここでも、「タテ・ヨコ」論が顔を出す——。

日本の労働市場は年功秩序型賃金体系と企業内組合という特質をもち、閉鎖的であると言われてきた。そして企業内で昇進していく道が勤労者に開かれているのが一般的である。他方、欧米では労働組合は職種ごとに結成され、同一企業内で複数存在する。そして、国内労働市場は横断的に構成され、勤労者の昇進は、同一企業内ではなく、企業を変わることによってなされていく。逆に、同一企業内で一生を終る勤労者は無能とさえみなされる。

このような特質をみれば、日本の企業社会は「タテ」型であり、欧米は「ヨコ」型であるということが出来る。しかし、企業内をみれば、欧米では職種構成上「タテ」型であり、従って、労働組合も、「タテ」型となる。「転動」も職種に基づいて行なわれる。これにたいし、日本での職種構成は、欧米ほど厳密なタテ割りではなく、企業内での転動は「配置転換」として比較的容易に行なわれる。この場合、転動、あるいは配置転換は「昇進」のこともあれば、経営の合理化のためであることもある。それ故、労働者側の抵抗を伴うものである。しかし、最終的には企業内組合として配置転換を受

け入れていく。ここに、日本の企業での産業用ロボットが導入されていく社会的基盤がある。また、「日本の成功」の秘密もここにある。

日本では、企業内では職種間の壁はそれほど厚くなく、また、管理職と一般従業員との上下の壁もそれほどではない。この意味で、日本は「ヨコ社会」である。欧米からは、これを日本的集団主義と呼ぶこともある。これにたいし、欧米では企業内は壁の厚いタテ社会であるが企業間では、「ヨコ」のつながり、つまり労働組合の連帯の強い「ヨコ社会」である、というのが実感である。

(うかい てるよし : 教養部助教, 社会学)

山之口漢の新資料発見

法文学部国文学科の玉城園美・比屋根治枝のおふたりが昭和56年度卒業研究「沖縄近代詩の展開」というテーマで研究のさい新発見をした。彼女たちは大正10年8月から大正11年の3月の間の八重山新報に山之口漢が佐武路あるいは三路というペンネームで21篇の詩篇を発表していたことを発見し確認した。 **娘**

これは従来の山之口漢研究にはまったく欠落していたもので、漢の初期研究に新しい光をあてるものになるだろう。(N)

娘

皆さんへのお願い

琉大図書館は現在着々と整備が進んでいます。今年末には閲覧事務も電算化される予定になっています。図書の検索もカードをくって探すのではなく、電算機の端末器でかんたんに必要な図書を探しだすことができるようになるのも近い将来のことです。

図書館の一階にはゼミ室・視聴覚室・語学ラボ・教官個室(8室)も整備され皆さんに使用して頂くことができるようになりました。とくに、視聴覚室(定員40名)は16mm・8mm映画・ビデオ・スライドなどを上映可能な部屋です。

わたしたちもは図書館の整備にともなって、わが大学の情報センターとして、図書雑誌はもとより、映画フィルム・スチールフィルム・ビデオテープ・録音テープなど、すべてにわたって収集していきたいと思っていますので、皆さんの御協力をお願いいたします。もうすこし具体的に言えば以下のよう資料です。

- (1) 科研費・校費等で購入した図書資料で当面研究の終了したもの、または共同研究の資料などは将来の研究の進展に備えて研究者や学生の共有の財産として図書館で保管したい。
- (2) 沖縄の芸能・民俗や自然などのビデオテープや映画フィルム。方言・歌謡などの録音テープ。これらは必要ならばコピーして保存する。
- (3) 個人のコレクションを寄贈されたときには、その寄贈者の名前を付けたコーナーを作ることになっています。現在当図書館には伊波普猷文庫、比嘉春潮文庫など15の文庫があり、最近では宮里政玄元教授の寄贈による貴重な宮里コレクションが加わりました。今後も個人のコレクションの寄贈を期待しています。
- (4) 沖縄の移民に関する資料を集めたい。まず、南米、北米、南洋などの邦字新聞の収集からはじめたいと考えています。

というような事情ですので、資料の所在を御存知の方、寄贈を御希望のむきがありましたら、電話でも御一報下されればありがたいです。学内2131(図書館事務長室)へどうぞ。(図書館長)

笹森儀助「南島探験」

—探験という視点から—

木 崎 甲子郎

わたしはかつて、オーストラリア探験史を調べたことがあった。そのときヨーロッパ人とくにイギリス人はじつによく探験記あるいは探験の報告書を書いていることを知った。それにひきかえ日本人による探験記のすくないことを痛感したのである。どうしてだろうか？

これはひとつにはヨーロッパと日本との歴史的経験のちがいによるのであろう。18～19世紀にはヨーロッパ、とくにイギリスの帝国主義的膨張政策に包みこまれた形で探験家たちの活躍があった。そして世界各地で活躍した探験家の報告書が本国で認められると、それによってかれらの名誉と地位が保証されたのである。だから、オーストラリアの内陸探験に功績のあったジョン・エアーはジャマイカ総督に任命されるというようなことがおきる。

ところが、わが国ではそのような国家的社会的伝統を持っていないのが第1の理由だ。ただ18世紀末から19世紀には最上徳内や北海道の地図を作った伊能忠敬や間宮林蔵などの蝦夷・樺太・千島の探験があった。しかし、それはロシアの南下に驚いた幕府があわてて派遣した調査であった。イギリス人の探験の多くは、政府が援助することはあっても個人の計画であったこととくらべるとそのちがいはおおきい。しかも、ロシア南下の脅威という外圧なしには幕府のこのような行動もなかったのである。つまり、外界からの刺戟に対する対応という形でしか外へ動きえない。思考が求心的内攻的なのである。これが日本人に探験家のすくないつまり探験記のすくない第2の理由である。

そのうえ、北海道から樺太にかけての地域は世界地図のなかで最後まで残った空白地域だった、という話を聞くと、幕府すなわち日本人が「領土」というものに如何に無関心であったかということがわかる。この意味で琉球王国が日支両属であったという歴史には、たんに中国貿易による利益を目的とした薩摩藩の政策によるだけではなく、日本人自身の求心的思考による領土観の弱さが基底にあると思われる。明治になって清国への「先島分割案」もこの見方で把えることができる。

しかし、近代的な明治国家が成立すると急激に国家と領土という観念が浮びあがってくる。とくに沖縄はそういう意味で琉球処分によって新付の地となったので、国にとってはひとつの焦点にもなるわけだ。

だから、明治初年から中期にかけて多くの調査活動があり、その報告書があるのはよく知られている。

そのなかで笹森儀助の「南島探験」は傑出している。もちろん、明治の国家意識昂揚期の間人だから、その眼で国防の最尖端の地として沖縄を見ていたのは当然である。

それにしても、この紀行に見られる精密な調査と記述によって当時の沖縄・八重山の現実を眼のあたりに見ることができる。貧しい庶民の生活とそれを収奪する旧態依然とした役人、この時代はまだ人頭税その他「旧質温存」の時代だったので笹森の眼にはなおさら悲惨にみえたにちがいない。地方役人の非道と無能ぶりをことあるごとに書いている。

一方那覇では奈良原知事と会い、かれを名知事とほめているところをみると、その年明治26年は第8代知事奈良原繁が着任して1年ばかり過ぎた頃だから、その後16年にわたって専制政治をしていたと悪名高い奈良原も、まだその頃はまじめな新任知事だったようだ。

とにかく、笹森は知事から手厚く待遇されているから、政府からの紹介状や便宜供与依頼があったにちがいない。だから、行くさきぎさの間切や蔵元で資料を提出させて調べることができたのであろう。

このような笹森の見方や立場は“水戸黄門”を想起させる。大権力(ヤマト)の立場から地方の小権力の悪業をこらす役目である。

しかし、かれの誠実な姿勢が記録を正確なものにさせているし、また、その土地の人びとに寄せる情熱が文脈に溢れて人を打つ。

はじめてこの本に接したとき、わたしは日本にもこんな探検記があったのか、という発見の思いに感動したのである。これに比べられるのは幕末に出版された松浦武一郎の一連の「蝦夷日記」であろう。松浦がアイヌの立場を終始貫いていたのをみても誠実な探検家というものはどこの国でもおなじだ、という感が深い。

この本が沖縄の民俗学や歴史学などに引用されることが多いのもその記述の正確さによることがおおいが、しかしそんなことよりもなによりもこの本は探検記として読んで面白い。何故面白いのか。沖縄島や先島をみづからの足で歩き、そこで感じたいい点も悪い点も率直に書いてあるからだ。笹森はおそらく直情の人とみえる。それはこの文におもねるところがないからである。後年現われるヤマトすべて善、ウチナーすべて悪という考え、その裏がえしとして、沖縄はなにもかもすばらしいというベッタリ型などは今でも見られる。それらとはちがった笹森の冷静な視点はこの本を感動させるものになっている。

数すくない19世紀の日本人の探検記のなかで出色のものと言える。わたしは笹森儀助にすぐれた1人の探検家をみるのである。

しかし、千島を探検し、報告はないがシベリアあたりまで調査の足をのばしたと云われている笹森がいかにもすぐれた探検家であったとしても、そしてかれ個人がいかにも誠実であったとしても、当時の日本は帝国主義的国家として成立しはじめた時代であり、笹森はその先端に立っていたことはいうまでもない。本多勝一流に言えば、“探検される側”の沖縄にしてみれば、笹森儀助の探検や「南島探検」という記録がどれだけ沖縄のためになったか、という視点からきびしくチェックされなければならない。

その意味でも評価できるし、この本は古典として残っていくであろうと思うのはわたしだけだろうか。
(きざき こうしろう : 海洋学教授, 地殻学)

笹森儀助著「南島探検」は沖縄関係資料室にあります。

K
290.9 笹森儀助
Sa76 南島探検 明治27(1894), 532 p. 23 cm. 図版 (中原善忠文庫)

併せて、同著者の「千島探検」も一般書架にありますので御利用下さい。

291 笹森儀助
Sa76 千島探検 明治26(1893), 183 p. 22 cm.

宮里コレクションの受贈について

宮里政玄教授(国際関係論および外交史)が、20年間にわたって収集した沖縄関係の貴重な戦後資料を後学の研究者のために、琉球大学附属図書館へ昭和57年2月9日に寄贈された。

宮里教授は昭和57年3月で琉球大学を辞し、新潟県下の大和町に新設される国際大学(大学院大学)へ移られることになっている。

宮里コレクションには、1942年から1951年までの米國務省の沖縄関係行政文書や、1947年から1960年までの極東軍司令部の「沖縄の軍政計画」に関する資料、又、マッカーサーライブラリーの「G2の報告書」の写しなどがあり、今後入手不可能と思われる貴重資料が多く含まれている。図書館では、宮里文庫を設けて、整理が済み次第研究者に公開することになっている。

〔本学教官著書寄贈コーナー〕

今回は、昭和56年11月16日より昭和57年2月15日まで御寄贈頂きました分を掲載致します。

敬称略

- 新垣 義一<物理> 「新垣義一教授退官記念誌」 琉球大学物理学科同窓生
- 岡本 恵徳<文学> 「沖縄文学の地平」 三一書房
「現代沖縄の文学と思想」 沖縄タイムス社
- 藤山 虎也<海洋> 「海水科学における海洋生物の挙動, I, II」(講座) 日本海水学会第34巻第5号, 別冊
- 亀川 正東<文学> 「沖縄の英学」 研究社
「うその教育ほんとの教育」 カルティヴェイト21社
「心に残るあの人この人」 琉球青年の村出版局
- 島袋 敬一<生物> 「琉球シダ植物目録」 ひるぎ社
- 杉蒲 正輝<保健> 「新訂特殊教育用語辞典」 第一法規
「現代社会福祉事典」 全国社会福祉協議会
「改訂保母養成講座第6巻生理学」 全国社会福祉協議会
- 池田 孝之<教養> 「市街地周辺地域における小規模住宅地開発の集積による市街地形成と問題点及び対応」(総合都市研究第4号) 東京都立大学都市研究センター
「建築線制度に関する研究・その1」(総合都市研究第6号)
「建築線制度に関する研究・その2」(総合都市研究第10号)
「建築線制度に関する研究・その3」(総合都市研究第12号)
「既成市街地の狹隘道路問題」(総合都市研究第10号)
「都市周辺地域における規制的土地利用計画に関する研究」(都市計画と居住環境1978.9)
「既成市街地における建売住宅の実態について」(住宅1977.5)
「建築線制度前史—明治期における「建築線」の導入と理解」(日本都市計画学会学術研究論文集第16号1981.11)
「都市周辺市街化地域における市街地形態の計画的規制手法に関する研究」
自費出版
「私道整備促進計画—大田区狹隘道路基本調査報告書1980」 東京都大田区建築部
「民間木賃アパート経営者等の建て替え意向に関する調査1981.3」 日本住宅公団
「練馬区緑化計画策定のための調査研究報告書1975.12」 東京都練馬区
「秋田湾地区都市整備計画調査報告書1980.3」 秋田県
「地区計画制度はどう働くか1981.2」 日本建築学会関東支部
「都市計画と居住環境1978.9」 東京都立大学都市計画研究室編
「総合都市研究第4号, 第6号, 第10号, 第12号」 東京都立大学都市研究センター
- 国府田佳弘<農工> 「高速荷重を受けるロータリー耕耕爪の動的挙動について」 新農林社
- 古謝 瑞幸<農場> 「沖縄畜産 Vol.1 No.1, 5, 7—16」 沖縄畜産研究会
- 森田 大<建工> 「図学演習」 鹿島出版会
- 篠原 武夫<林学> 「森林組合 No.136~138」 全国森林組合連合会
- 山口 正士<海洋> 「動物と自然, Vol.11 No.8」 ニュー・サイエンス社

- 安井 祐一<教養> 「Lecturas Universitarias el Espanol」
芸林書房
- 松井 克明<医学> 「産婦人科の世界, 第33巻6号, 別刷」
「癌の臨床, 第27巻7号, 別刷」
「琉球大学保健学医学雑誌, 第4巻第1号別刷」
- 仲宗根平男<林学> 「琉球列島における自生および外来樹種の用途, 分布および適応性」 (林
政資料第3号)琉球林業協会
- 宮城 健盛<退官> 「宮城健盛画集」 大同デザインセンター
- 与那嶺松助<退官> 「与那嶺松助教授記念論文集」 北大路書房
- 池原 貞雄<生物> 「琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革, II」 (環境科学研究報
告集B 113-R 12-20, 文部省「環境科学」特別研究陸域部門) 南西
印刷
「沖縄の自然とノグチゲラ」 汐文社

—投書箱—

教養課程における英語

今年も大学入試が終わり、新聞にはどこかの予備校の解答つきで入試問題が掲載されている。解いてみるとなかなか難しく、とくに英語などは入試時点でこのような問題をやっていたのかと思うほどで、入学時の自分のレベルの高さ(?)に感嘆し、その後の進歩がないことにガッカリする。

もうむかしのことだが、琉大を受験した際、某出版社(赤い本)の琉球大学の大学紹介には、バイトの欄に外国人に日本語を教えるバイトがあります、と載っていた(現在も載っているかもしれない)。また入試にはヒアリングが課せられている(これは外語大以外の大学ではどこも課せられていない)。これらのことから仲間たちの琉大の英語教育に対する期待と不安はかなり大きかったように憶えている。

しかし、入学して教養課程に入り、英語に対する不安はすべて取りのぞかれ、期待はまったくうらぎられた。外国人に日本語を教えるバイトなどというものは聞いたこともないし、教養課程における英語の講義は、質・量ともに高校のそれより劣り、高校時代にやってきたことを一から復習するのである。

したがって、われわれ学生にとって英語はたいへん有難い科目の一つであった。なぜならば、試験前に友達ちのノートをコピーし、一晚、勉強をしさえすれば合格する。あとは出席日数をいかにして満たすかという大問題がある。この問題はなかなか難しく、学生間の協調、綿密な作戦が必要であり、なおかつ、その作戦を決行するには勇気と決断力、健全ななどの状態を必要とする。

このようにして教養課程を目出たくパスし、三年目からは専門課程にはいる。専門課程ではおもに、英文の専門書講読がはじまる。あれやこれやと翻訳につまづきながら苦勞するのだが、なかなか進まない。教養での英語の成績は全員優印となっているが、その教養2年間のブランクがたたっているのである。皆出席の優等生も同レベルなのだからたのみの綱もなくなってしまふ。この時のみんなの話、「大学入試の時がいちばん実力があつたなあ。」

ようやく英文がなんとか読めるようになり、専門に取りかかろうとする時はすでにおそし、卒業は目前にせまり、結局専門課程では英語を勉強したということになる。このように教養課程における英語力の弱さを卒業までひきずっているのだ。

教養課程における講義は2種類に分けられる。1つはテレビとか雑誌にみられるような社会関係などのほんとうの意味での一般教養教育と、数学・英語それに物理・化学・生物学・コンピューターなどの専門課程への準備というような基礎教育である。一般教養は人と話し、テレビを見、本を読めば自然と身につく、また講義もおもしろい。しかし基礎教育は教養部学生の段階では、それを専門とす

る学生以外には先が見えず、なんのためにやっているのかなかなか認識できない。学生はだいたい専門課程に入ってから英語を無視できないことがようやくわかるのである。したがって、基礎教育は徹底的にシゴク必要があると考える。学生もある意味でそれを期待している。

5 教養課程の英語は、質・量ともに大学入試よりレベルを上げる必要があるのではないか。それにしても、本学の教養英語のレベルの低さにはあきれるほどである。 (理学部一学生)

<お知らせ>

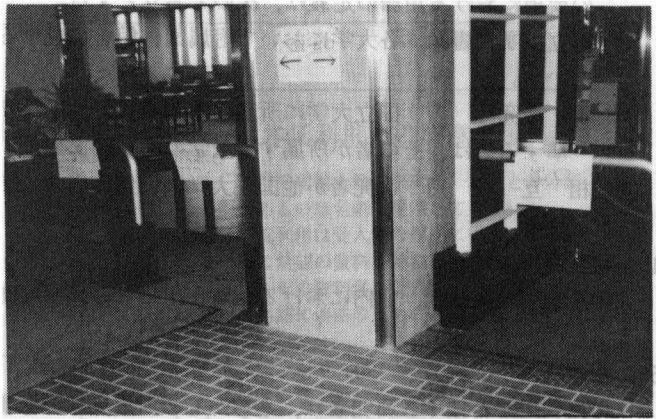
ブックディテクション(無断図書持出防止装置) の導入について

図書館ではこれまで職員による入退館者のチェックを行なってきましたが4月1日より電動機械装置(Book Detection System)によるチェックを行なっております。

この装置は貸出し手続きをしないで無断に資料を持出すことを防止するとともに、持物点検による双方の心理的不快感から開放されるために開発されたものです。

機械装置は右図のようになっており、柱をはさんで入口二つ(左側)、出口一つ(右側)になっております。

入退館の際は、是非下記事項をお守り下さい。



記

1. 必ず装置の入口から入り、出口から出て下さい。
2. 無理に出入りをしますと装置のバーがこわれますので御注意下さい。
3. 貸出し手続きをやらないうで持出そうとすると警報音がなり、バーがロックされますので必ず手続きをとって下さい。
4. 持物はできるだけロッカーを御利用下さい。
5. 微妙な機械のため誤って警報音が鳴る場合がありますのでその際はお許し下さい。

(関係係)で

ワンターに提出し、決裁 国立大学図書館間の相互利用が円滑化

従来他大学図書館を利用しようとする場合は、館長名による「貴館の利用について」という依頼文書を発行してきましたが、このたび相互利用を円滑化するために国立大学図書館協議会総会は第28回協議会(於：都ホテル、当番校琉球大学)において相互利用のための「実施要項」と、それに関係する「細則」を採択して、「共通閲覧証」による新しい図書館間相互利用制度が昭和57年1月15日から実施されるようになりましたので今後は「共通閲覧証」を御利用下さい。

「共通閲覧証」の利用申込みについては、図書館閲覧係(貸出カウンター)におたずね下さい。(Tel. 学内 2144)

なおこの制度は学部学生には適用されませんので従来どおりの方法「貴館の利用について」で申し込んで下さい。(閲覧係)

国立大学図書館間相互利用実施要項

1. 目的

この要項は、国立大学に所属する研究者の研究・教育活動に資するため国立大学図書館に所蔵されている図書館資料の円滑な相互利用を促進することを目的とする。

2. 対象

この要項は、国立大学図書館協議会に加盟している大学図書館間における研究者による相互利用に対して適用する。

3. 定義

この要項における用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 国立大学図書館：各大学において附属図書館を構成する中央図書館、分館、部局図書館・室をいう。
- (2) 研究者：国立大学に所属する教職員、大学院学生及びこれに準ずる者をいう。これに準ずる者は、その者が所属する大学の附属図書館長が認める者をいう。
- (3) 相互利用：研究者が他国立大学図書館に向いて、その所蔵資料を直接利用することをいう。

4. 相互利用の範囲

相互利用の範囲は、館内における閲覧を原則とし、その方法は当該大学図書館の定めるところによるものとする。

5. 相互利用の手続

相互利用を希望する研究者は、あらかじめ所属大学の図書館長に申請し、「国立大学図書館間共通閲覧証」の交付を受け、利用時にこれを利用受入館に掲示するものとする。「共通閲覧証」の様式は別に定める。

6. 相互利用の制限

利用受入館は、当該大学に所属する利用者の利用が著しく妨げられると判断した場合には、相互利用を制限することができる。

国立大学図書館間相互利用実施細則

1. この細則は、国立大学図書館間相互利用実施要項に掲げる目的を達成するために必要な事項を定めたものである。
2. 相互利用方式
要項にいう「国立大学図書館間共通閲覧証」による共通閲覧証方式とするが、従来より実施中の他の方式を排除するものではない。
3. 国立大学図書館間共通閲覧証
 - ア 様式は別紙のとおりとする。
 - イ 有効期間は当該年度内とする。
 - ウ 本証利用上の注意事項の周知に努める。

4. 利用受入館

要項3の(1)にいう国立大学図書館であるが、当該大学の事情により、1大学で中央図書館のみが利用受入館となることがある。

5. 相互利用マニュアル

各館の利用上の留意事項を盛り込んだ相互利用マニュアルを全館が所持するものとする。

国立大学図書館間共通閲覧証申込書						
部局	学科	職名	ふりがな		氏名	
	専攻	D C M C	年			
申込日	昭和 年 月 日					※ No.
現住所	(〒)					方Tel.
備考	学内連絡先 Tel.					

注意 ※印欄は記入しないで下さい。

附属図書館

国立大学図書館間共通閲覧証

* No. _____
昭和 年 月 日

国立大学図書館協議会
加盟館長殿

附属図書館長印

所属 _____

身分 _____
ふりがな _____
氏名 _____

本学の上記の者から、貴館資料を利用したい旨、申し出がありましたので、閲覧の便宜をお取り計らい下さるようお願いいたします。

〔有効期間：昭和 年 3月31日まで〕

〔本証利用上の注意事項〕

1. 利用受入館入館の際には、本証と身分証明書あるいは名刺を提示して下さい。
2. 閲覧利用は受入館の規則に従って下さい。
3. 特に希望の資料を閲覧したい時は、前以って、その資料名を受入館へ連絡して下さい。当館に連絡のための用紙を備えています。
希望資料の所在など不明な点があるときには、当館で尋ねてから出かけて下さい。
4. 本証の記載事項に変更があった場合は届け出て下さい。

本証発行館電話
電 ー ー (ext.)

教官閲覧個室の利用案内

新キャンパスに移り、図書館の設備も整備されてきましたがこの度教官閲覧個室(8室)が利用できるようになりましたのでお知らせします。

なお利用を希望される方は別添「利用申し合せ」をお読みのうえ、「申し込み書」を2階閲覧係カウンターに提出し、決裁をうけて下さい。

教官閲覧個室利用申し合せ

(昭和56年10月19日図書館運営委員会決定)

1. 教官閲覧個室(以下閲覧個室という)は図書館資料を使用して研究を行なう場合に利用することができる。

2. 閲覧個室を利用することができる者は次のとおりとする。
 - a 本学の教官
 - b 本学の大学院生
 - c その他館長が適当と認める者
3. 閲覧個室の利用期間は10日間とする。ただし、当該閲覧室の予約がない場合に限り10日間の範囲内で利用期間を延長することができる。
又、利用時間は開館中で9:00～17:00までとする。但し土曜日にあつては9:00～12:00までとする。
4. 閲覧個室の利用希望者は利用申し込み書に必要事項を記入の上閲覧カウンターに申し込まなければならない。
5. 利用者は利用のたびに閲覧カウンターから鍵を受け取り、又退館する時は返却しなければならない。
6. 閲覧個室の利用に当っては利用者は次のことに留意しなければならない。
 - a 室内で飲食・喫煙はしないこと。
 - b 他の利用者に迷惑をかけること。
 - c 室内を汚損しないこと。
 - d 利用の済んだ図書館資料はすみやかに返却すること。
 - e 退室の際は必ず消灯・施錠すること。なお、物品ないし私物の紛失の事故があつた場合、附属図書館としてはその責を負わない。
7. 閲覧個室の利用状況に応じ、その利用が制限もしくは停止されることがある。
8. 閲覧個室の施設、設備を破損又は紛失した時はその損害を弁償しなければならない。

附 則

この申し合せは昭和56年10月19日から実施す。

受付番号	
------	--

教官閲覧個室利用申し込み書

館 長	事務長	係 長	係

私は下記のとおり教官閲覧個室を利用したいと思ひますので御許可下さいますようお願い致します。なお利用に際しては「教官閲覧個室利用申し合せ」を守り、万一事故を起した場合は責任をもつて処理にあたります。

昭和 年 月 日

琉球大学附属図書館長 殿

学 部		学 科		職 種		番 号	
				年次			
氏 名						印	
利用目的							
期 間	昭和 年 月 日～昭和 年 月 日 (日間)						

沖縄関係資料の開架及び館外貸出について

沖縄関係資料は従来貴重書扱いのため、館外貸出しは勿論のこと、開架さえ行なわれず出納式で利用者の要求にサービスしてきました。しかしながら最近学生のレポート作成及び教官の研究増大のため、開架及び館外貸出しの要望が強く、去った3月12日より館外貸出しを行なっております。

沖縄資料のなかには絶版等貴重資料もあり、慎重に検討した結果比較的入手しやすい市販されているもので3部以上あるものについて館外貸出しをやることになりました。

資料は沖縄関係資料閲覧コーナーに別置してあり、約700標目、900冊が開架されているので自由に書架からとってみることができる。又書架にない分については当然従来どおりカウンターに請求して下さい。

貸出しは2冊10日間で一般図書と同様な手続きをとって下さい。今後購入される新刊書については随時追加していきますが絶体冊数が少ないので貸出し期限を厳守するのは勿論のこと、読み次第早急に返却してもらいたい。

以上沖縄関係資料の利用貸出しについて案内してきましたが図書館では皆さんの利用をお待ちしております。
(閲覧係)

新着図書案内

- | | |
|---|---|
| 知的創造のヒント, 外山滋比古著, 講談社, 1978. 196p. 18cm. 002-To79 | 人間教育のすすめ—青春のつまづきに悩む子と親のために—, 久保継成著, 東京, 学習研究社, 1980. 230p. 19cm. 159.7-Ku11 |
| JECC コンピューター・ノート, 日本電子計算機株式会社編著, 東京, 日本電子計算機, 1980. 434p. 18cm. R-014-N77 | 道教思想, 幸田露伴著, 角川書店, 1957. 233p. 18cm. 166-Ko16 |
| DIALOG 検索ガイド, 丸善株式会社 MASIS センター, 1981. 1冊(バインダーとじ), 30cm. R-014.35-D71 | 男でござる—暴れん坊一代記(風龍)の巻, 細川隆元著, 山手書房, 1981. 2冊. 20cm. 289.1-H94 |
| 書評年報, 1980年, 人文・社会・自然編・習志野, 書評年報刊行会, 1981. 296cm. 25cm. R-027.9-Sh95 | ベルツの日記, 第一部(上, 下) Baelz 編, 菅沼竜太郎訳, 岩波書店, 1965. 2冊, 15cm. E. 290.99-B14 |
| 歴史と文化, 岩手大学人文社会科学部 アジア(日本学)研究編, 盛岡, 1981. 323p. 041-197 | 日本の山河—天と地の旅41—, 渡部まなぶ 写真, 北小路健 文, 国書刊行会, 1981. 91p. 30cm. 291.09-N99 |
| 古代人の精神世界, 湯浅泰雄著, 京都, ミネルヴァ書房, 1980. 251.5p. 19cm. 121.02-Y96 | 東南アジア要覧1981年版, 東南アジア調査会編, 1981. 1冊. 25cm. R-292.3-To63 |
| 眼と精神, Mメルロ=ポンティ著, 滝浦静雄, 木田元共訳, みすず書房, 1979. 360. 20p. 22cm. 135.9-Me66 | 理想国家スイス—二十世紀の迷信—, 八木あき子著, 東京, 新潮社, 1980. 203p. 20cm. 302.345-Y15 |
| 笑い, 人みしり, 秘密—心的現象の精神分析, 小比木啓吾著, 大阪, 創元社 1980. 242p. 19cm. 146-O67 | 日本の歴代知事, 第2巻, 歴代知事編纂会編, 東京, 1981. 2冊, 27cm. R-318.1-R25 |
| 人間の深層にひそむもの, 河合隼雄著, 大和書房, 1980. 233p. 19cm. 149.5-Ka93 | 国際儀礼に関する12章—プロトコール早わかり—, 外務省情報文化 319.1-G15 |

- 局国内広報課編——，東京，世界の動き社，1981. 196p. 18cm.
- 実りある文化交流を求めて——東南 319.1-Ko51
アジアとの交流を考える——，東京，国際交流基金，1980. 352p. 19cm.
- 日本経済の落とし穴，西山千明，高野邦 332.1-N87
彦著，東京，ダイヤモンド社，1981. 195p. 19cm.
- 経済協力の現状と問題点 1980. R-333.8-Ts91
通商産業省編，東京，1981. 817p. 21cm.
- 日本的センスの経済学——実感からの 335-I97
出発—— 岩田龍子著，東京，東洋経済新報社，1980. 224p. 19cm.
- 我が国企業の海外事業活動 第9回 R-335.3-Ts91
調査(昭和55年版)，通商産業省産業政策局編，東京，大蔵省印刷局，1981. 150p. 26cm.
- 国民の福祉の動向 昭和56年， R-369.021-Ko48
厚生統計協会，1981. 314p. 26cm.
- 子どもの性格づくり，下，中野佐三 .371.44-N39
編著，全日本社会教育連合会，1959. 110p. 17cm.
- キャンパスの症状群——現代学生の 371.47-Ka71
不安と葛藤——，笠原嘉，山田和夫編，東京，弘文堂，1981. 305p. 20cm.
- 現代青年の意識と行動，吉田昇(他) 371.47-Y86
編，日本放送出版協会，1980. 240p. 19cm.
- 我が国の教育水準 昭和55年度， R-373.1-Mo31
東京，文部省大臣官房，1981. 238, 175p. 21cm.
- 学級集団づくりと学習集団，全生研 375-Z3
常任委員会編，東京，明治図書出版，1980，199p. 19cm。(生活指導入門シリーズ. 7)
- 女先生メキシコ奮闘記——海外派遣 376.99-H69
教師の体験——平山くによ著，東京，教育研究社，1980. 201p. 19cm.
- 軍事大国への幻想——真に国を守る 390.4-I56
には——，猪木正道著，東京，東洋経済新報社，1981. 213p. 20cm.
- 地方自治体と軍事基地，佐藤昌一郎 393.9-Sa85
著，東京，新日本出版社，1981. 411, 7p. 22cm.
- 仮性近視と色盲治療，和同会編，東 496.137-To63
京，ダイナミックセラーズ，1981. 231p. 18cm.
- 色盲色弱は治る——生き方に自信 496.137-Y19
がつく——，山田紀子著，KKベストセラーズ，1980. 229p. 18cm.
- 国民栄養の現状 昭和56年版 厚 R-498.53-Ko83
生省公衆衛生局栄養課編，東京，第一出版，1981. 207p. 26cm.
- 水資源のすべて 昭和56年度版， R-519.11-Ke51
“水資源のすべて” 編集委員会編，東京，建築行政資料調査会，1981. 958p. 27cm.
- 水資源の開発と水利用 昭和56年 R-519.11-Ko45
度版，国土開発調査会編，1981. 657p. 27cm.
- 図面で見えるアメリカノ建築家——ジ 523.8-G31
ェファソンからヴェンチューリまで——，ディヴィッド・ゲバード，デボラ・ネヴィンズ著，谷川正己，増山博文訳，東京，鹿島出版会，1980. 347p. 22cm.
- SOUND CREATOR——40年を越 540.6-So81
えて歩み続けるパイオニアスピリッツ——，パイオニア株式会社，1980. 550p. 31cm.
- 日本農業年鑑 1981年版，日本農 R-610.59-N77
業年鑑刊行会編，東京，家の光協会，1980. 529p. 26cm.
- 農業の手引 昭和56年版 化学工 R-615.7-N97
業日報社，1981. 701p. 21cm.
- 会計全書 昭和56年度版 東京， R-679.036-Ka21
中央経済社，1981. 2860p. 23cm.
- ちょっとキザですが，磯村尚徳著， 699.3-I85
講談社，1976-1977. 2冊. 20cm.
- 芸術とはなにか 福田恆存著，新潮 701-F74
社，1959. 135p. 16cm.
- 舞踊年鑑 5(1981)，全日本舞踊連 R-766.91-Z3
合舞踊年鑑委員会編，東京，全日

本舞踊連合, 1981. 360p. 27cm.		小説入門, 中村光夫著, 新潮社, 1959. 165p. 15cm.	901.3-N37
演劇の本質, Henri Gouhier 著, 佐々木健一訳, デイビーエス・ブ リタニカ, 1976. 334p. 20cm.	771-G73	作家の顔, 小林秀雄著, 新潮社, 1974. 282p. 15cm.	910.28-Ko12
ダダ・シュルレアリスム演劇史, H. ベアール著, 安堂信也訳, 竹内書 店, 1972. 360p. 19cm.	772-B32	小説の美学, Albert Thibaudet 著, 生島遼一訳, 京都, 人文書院, 1967. 182p. 20cm.	901.3-Th4
芝居むかしばなし, 福原麟太郎著, 毎日新聞社, 1974. 234p. 20cm.	772.1-F75	随筆入門, 吉田精一著, 新潮社, 1974. 243p. 15cm.	914.6-Y86
日本人の演技, 戸井田三著, 弘文堂, 1959. 203p. 19cm.	772.1-To26	地方よみがえり伝説——筑豊・三池 ・香焼町ルポ——, 中里喜昭著, 東京, 大月書店, 1981. 234p. 20cm.	915.9-N46
私の文章作法, 清水幾太郎著, 潮出 版社, 1971. 191p. 18cm.	816-Sh49	シェイクスピアの世界, 木下順二著, 岩波書店, 1974. 322p. 20cm	930.28-Ki46
英語の徹底的研究, 古谷専三著, 續 文堂, 1958. 341P. 19cm.	830-F95	母よ嘆くなかれ, パールバック著, 松岡久子訳, 法政大学出版局, 1981. 143p. 20cm.	934-B82
ピグマリオン, Bernard Shaw 著, 二宮尊道編注, 英潮社, 1972. 79p. 18cm.	837.7-Sh13	フランス文学研究文献要覧 R-950.31-Su32 1945~1978(戦後編), 第3, 4巻, 杉捷夫ほか編集, 東京, 日外アソ シエーツ, 1981. 2冊, 27cm. 第3巻——作家・作品, GQ. 第4 巻——作家・作品, R-Z.	
人生の階段, Carl Hilty 著, 原田武 雄訳注, 大学書林, 1958. 127p. 18cm.	747.7-H58		
江戸時代蘭語学の成立とその展開 IV, 杉本つとむ著, 早稲田大学出版部, 1981. 1171p. 27cm.	849.3-Su38		

図書館事情

〔第136回図書館運営委員会要録〕

日時：昭和56年11月30日(月) 10:30~11:50

場所：図書館会議室

議 題

- ① 図書館運営委員長代行について
- ② 本学教官の出版物を図書館に寄贈する運動の推進について

報告事項

- ① 沖縄関係文献資料保存費として、文部省から321万円配分された事が報告されました。
- ② 環境整備について

〔第137回図書館運営委員会要録〕

日時：昭和57年1月18日(月) 10:30~12:00

場所：図書館会議室

議 題

- ① 工学部、農学部 of 図書室サービス運営について
- ② 琉球大学附属図書館規程について

報告事項

- ① 昭和56年教官著書及び寄贈図書について
- ② 国立大学図書館間の相互利用について
- ③ 概算要求の内示について

〔第138回図書館運営委員会要録〕

日時：昭和57年2月15日(月) 10:30～12:00

場所：図書館会議室

議 題

- ① 工学部・農学部図書室のサービス運営について(継続審議)

報告事項

- ① 宮里コレクションについて
- ② 学位論文の件について
- ③ 文部省出張報告(館長)

〈研修〉

11月9日(月) 新井裕文閲覧係長，風樹館でのJ.S.T.研修に出席，12日まで。

12月4(金) 全職員〈非常勤抜き〉琉大計算センターでの「端末研修」を受ける。10:00～12:00，
14:00～16:00

12月8(火) 主任以上，図書館会議室での事務電算化研修会を持つ。

12月9日(水) 宮島恵曠雑誌係長，仲西盛秀閲覧係主任，教養部での電算化研修会に出席。

12月24日(木) 全職員，庶務部長，人事課長による研修会。

昭和57年2月2日(火) 崎浜文枝受入係長，山田勉参考調査係長，風樹館での監督者研修会に出
席，5日まで

〈出張〉

11月16日(月) 池原牧子整理係員，昭和56年度大学図書館職員講習会出席のため大阪大学吹
田分館へ，21日まで。

昭和57年2月19日(金) 新城安善整理係長，宮島恵曠雑誌係長，ジャパンマーク利用者懇談会出
席のため東京へ，20日まで。

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第15巻 第2号〔通巻第54号〕

昭和57年3月25日 発行人 平良恵仁 沖縄県中城村字南上原858
電話(09889) 5-2221 内線(2143)